

「当たりが出た！おばさんお菓子もう一個ちょうだい！」10円ガムのあたりが出た時の感動は今でも覚えている。私は子供の頃よく駄菓子屋に行っていた。甘いものが大好きな私にとって駄菓子屋はまさに夢の国だ。母にもらった100円玉でいかに多くのお菓子を手に入れるか頭をひねらせたものだ。おばさんが優柔不断な私を見かねてお菓子選びを手伝ってくれることもあった。駄菓子屋の取材をしていて、小学生の頃の思い出がよみがえり甘酸っぱい気持ちになった。やはり「駄菓子屋」や「駄菓子」は子供の頃の思い出と密接に結びついているように思う。今、小学校の頃通っていた駄菓子屋があった場所にはマンションが建っている。

細江美月

今回は細江のサポートで記事に関わりました。駄菓子屋うえのさんに取材で行ったときは、本来の目的を忘れるくらい駄菓子選びを楽しんでしまいました。

中森葉月